

# 東北優駿

3歳・ダート2000m M1  
5月31日(日) 水沢競馬場



昨年の優勝馬・リケアカプチーノ

日本レーシングサービス JBC協会協賛

## 第34回 東北優駿 (M1)

(マインドユアビスケッツ賞)

水沢競馬場/3歳・ダート2000m

5月31日(日) 第10競走 17:45発走

かつては東北三県(岩手・山形・新潟)交流として三場持ち回りで行われていた東北優駿は2003年盛岡競馬場で行われた第26回をもっていったんその歴史の幕を閉じました。2019年、岩手の3歳三冠路線整備に伴って「岩手ダービー」の位置づけで復活。回数表示もかつての歴史を引き継ぐ第27回から再出発して今年で8年目となります。近年は、のちに3歳馬として史上初の一線記念みちのく大賞典を制し金沢・北國王冠3着にもなったリケアカプチーノ、全国交流重賞の園田・楠賞優勝、不來方賞4着のフジユージーンなど全国へと飛躍する馬たちを送り出してきました。

### ■アドレニコル(牝3 水沢・佐々木由則厩舎)



デビューはJRA、新馬戦9着の1戦のみで岩手に移ってきた本馬だったがポンポンと2連勝してすんなり軌道にのった。岩手では10戦して3勝2着2回3着2回と堅実な成績で、重賞ではまだ掲示板圏内の成績がないものの留守杯日高賞では地元勢2番手、もう少しで掲示板突入の7着に食い込んでいて力も付けている印象だ。距離延長・相手強化の今回は楽な戦いにはならないだろうが、今の好調さを武器に上位を目指す。

厳しい調教を積んで力を付けてきていると感じる。ただ今回は牡馬の一線級が相手だし、距離も長いように感じます。(佐々木由則調教師)

## ■セイクリスティーナ(牝3 水沢・佐々木由則厩舎)



女王が3歳の頂点を狙って参戦する。「牝馬による東北優駿優勝」は3年前のミニアチュールがおり記憶にも新しい所だが、“岩手ダービー”時代のダイヤモンドCでは牝馬の優勝が無く、さらにかつての三県交流時代に遡ってもベルノネ・ラストヒット・カガリスキーの3頭に留まる。留守杯日高賞と東北優駿の“3歳春二冠”なら少なくとも岩手では史上初。2歳にして最優秀牝馬にも選ばれた女傑が歴史の扉を開いてみせるか？注目の一戦だ。

前走から間隔をとって調整してきて順調。2000mはやってみないと分からないが小回りの水沢なら対応してくれるだろう。あとは極端な高速決着にならなければいいね。(佐々木由則調教師)

## ■ロジータサンライズ(牡3 盛岡・齋藤雄一厩舎)



ここまで通算16戦、勝ち星は門別時代のひとつに留まるが、一方で掲示板を外したのは2回のみと堅実な戦いを続けている。それは重賞でも同様で、これまで5回戦って5着以下は無しという点は覚えておきたいところだ。戦績的にも血統的にも2000mの距離は課題になるだろうが、例えば二走前、フォースメンとの着差は小さくはなかったとはいえ、それを物差しにすれば今回のメンバーの中では差が無い位置にはあるといえる。やはり持ち味の堅実さは軽視できないだろう。

終いの脚を使ったり使わなかったりでもうひと押し届かないが、しっかり走れば重賞でも堅実な馬。状態も変わりなく順調です。(齋藤雄一調教師)

## ■ブライオン(牡3 盛岡・橘友和厩舎)



2歳時は一般戦で2勝を挙げるも重賞では掲示板に届かず。そんな本馬が今季は3戦連続で上位争い、それも重賞でも僅差に迫るほど。まさに一変、まさにこれが成長というものか。そんな躍進のきっかけは冬場に育成牧場で鍛えてきた事にあったと橘師。「育成で乗り始めた当初はピリッとしなかった。“喝”を入れてほしい、厳しく鍛えてほしいとお願いして、それから馬が変わってきました(橘師)」。大きく成長したこの春、その集大成の成果をここで見せてくれるかも。

春のレースで行きっぷりが良くないからとブリンカーを付けた前走でしたが結果的には効果がイマイチだった感じ。今回はブリンカーを外して前に馬を置く形で戦ってみたいと考えています。期待していますよ。(橘友和調教師)

## ■ササキントサブロー(牡3 盛岡・飯田弘道厩舎)



ダイヤモンドCは8着と4戦ぶりに重賞での掲示板を外した本馬だったが、遠征馬を含む相手関係も厳しかっただろうが、陣営が“相性がいまひとつ”と考える盛岡での戦いだったから、という点も考慮しておきたいところ。前走時にも触れたように月一ペースを守っていることで状態は引き続き安定しているし、水沢に替わることでの変化も期待できるだろう。地元勢同士とはいえ前走上位馬が残る相手関係は楽ではないが、決して大きな差は無いはず。

前走も折り合いを欠かずに終いも伸びているので距離は特に気にしていない。ここまでも自分の力は出していると思うし、今回も自分の競馬をして少しでも上に…ですね。(飯田弘道調教師)

## ■アウトザロー(牡3 水沢・千葉幸喜厩舎)



自身初の重賞挑戦だった前走・ダイヤモンドCでは4着を確保。最後の追い比べでアゲハシンワに及ばなかったとはいえ道中の立ち回りそして最後の伸びでは上位勢と差のないものを見せていた。“ここ通用”のメドは立ったと言っていだろう。そして今回は、その前走で得た教訓がここに挑むにあたっての手応えにもなっている。「前走よりもスムーズに流れに乗れるよう、調教から意識してきた」と千葉幸喜師。東北優駿で1勝、ダービーグランプリでは4勝を挙げている“ダービートレーナー”がさらなる一冠を狙っている。

この中間はこれまでにない好時計を出していて好調さを感じる。長めの距離の経験を積んだことで流れにも乗りやすいでしょうし期待を持って臨みます。(千葉幸喜調教師)

## ■バオシェテンシ(牝3 水沢・千葉幸喜厩舎)



JRA未勝利からこの春岩手に転入して2連勝。ただしそれはいずれも3歳C級でのもの。近年の東北優駿で結果上位なのはダイヤモンドCで勝ち負けしていた、あるいはこれまでの3歳重賞で上位を確保した実績を持っていた馬がほぼ全て…という点を振り返れば、傾向面からはなかなか厳しい立ち位置だと言わざるを得ない。希望のひとつが父サンダースノーという点だ。ナルカミが不來方賞を制したようにダート中距離は合う血統。秘めた底力をここで絞り出せるか。

距離延長はプラスに働くと思っていますが相手は強力ですね。距離の懸念が少ない分、自分の競馬を貫いてひとつでも上位へ…と思っています。(千葉幸喜調教師)

## ■ゼウスシルエット(牡3 水沢・板垣吉則厩舎)



岩手初戦の前走は6着。道中好位追走しながら機をうかがう走りは旧地の時とも変わりなかったが、最後離され気味になったのはコース形態の違いの分があるいは上位勢が上がり3ハロン37秒台でせめぎ合うような展開の違いだったか。そのいずれだったにせよ地元勢同士の中では通用の手応えはあったと言えるし、戦い慣れた平坦・右回り、例年の傾向からも極端な上がりの競馬にはならない…と考えるなら前進の余地はあるはずだ。旧地で強豪と渡りあってきた経験を発揮する時が来た。

兵庫でいろいろ経験を積んできている馬だし状態も良い。前走の感じからは距離延長がこの馬にプラスになるかどうかはなんとも言えないが、今後の走りにもつながれば。(板垣吉則調教師)

## ■トレモロ(牡3 盛岡・齋藤雄一厩舎)



昨年3月の門別での能力検査。大きなトビの、実に綺麗なフォームで走る栗毛の馬を見て、すぐに阿部龍騎手を捕まえてどんな馬なのかを教えて貰った。それがトレモロだった。デビュー戦勝利のあとは勝ち星無く門別を離れたとはいえ、戦ってきたのがあのベストグリーンを始め同世代の中でも最強レベル、そこで踏みとどまってきたことを思えば本馬の素質にも疑いはない。本格化はもう少し先なのかもしれないが、岩手2戦目での重賞挑戦、期待を持って見てみたい。

前走まで少し時間はかかりましたが内容は3着でも悪くなかった。中間も順調です。距離とか相手関係とかはやってみないと…だけど好レースを期待しています。(齋藤雄一調教師)

## ■レジェンドバローズ(牡3 水沢・菅原勲厩舎)



前走のダイヤモンドCが昨年8月以来の復帰戦。勝ち馬から約6馬身差の5着という結果の数字だけを見れば“休み明けとしてはまずまずの内容”という印象を持つかもしれないが、主導権を握って4角先頭、残り200mを過ぎたあたりで力尽きたもののそこまでは何度もファイトバックしていた走りは5着ながらも“負けて強し”。さすがは世代トップクラスの素質馬だと唸らせるものだった。そんな休み明け初戦を叩かれての今回は当然上積みも期待して良いはず。半兄フレッチャビアンカに続く兄弟制覇なるか?にも注目だ。

一度叩かれたことで中間の走りも前走時とは違ってきた。距離の課題は他の馬も同じ事。この馬なら対応してくれると思っています。(菅原勲調教師)